

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4071601902		
法人名	株式会社 恵優		
事業所名	グループホーム陽だまり		
所在地	福岡県久留米市御井町2491番地1 (電話)0942(43)1936		
自己評価作成日	令和4年12月26日	評価結果確定日	令和5年3月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループホーム陽だまりは、高良山のふもとに位置し、四季を通じて自然豊かな風景を近くに望むことができる。スタッフには、看護師、作業療法士等の医療系有資格者9名が在籍しており、急変時や怪我等への対応が早く、医療機関との連携がスムーズである。開設して17年が経ち、地域に根差した施設と認知されており、ご利用者の希望があれば地域の老人会に入会ができるため、施設外の人々との交流も可能にしている。利用者それぞれのやりたいことや笑顔を大切に、日々を楽しみながらできる限り、今出来ている事を継続していけるようなサポートを目指している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	令和5年1月23日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

当事業所は、豊かな自然に囲まれた閑静な住宅街にある木造の2階建ての施設である。敷地内には中庭があり、四季折々の花が咲き、季節を感じる事ができる。リビングには畳のスペースがあり、暖かい日差しが差し込む空間となっており、廊下は歩行訓練のリハビリができる広さがある。地域の人との交流が盛んで、地域の方が気軽に立ち寄り、おすそ分けや差し入れがある等、認知症の人やグループホームについて、知ってもらうように地域住民に働きかけを行い、その成果が現れている。「自立支援」と「笑顔支援」を目指し、「その人らしさ」を大事にして、日々の変化に合わせて、関わりを持つよう努めている。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	6年前に職員全員で会議を持ち、事業所理念を見直した。壁にかかげるだけでなく、毎日の朝礼で唱和し、管理者、職員はこれらを基に日々介護サービスに努めている。	「その人らしさ」「チームワーク」「地域の一員の自覚」という3つの事業所独自の理念がある。朝礼時、職員は理念を唱和している。また、ミーティングや朝礼時に理念について、職員間で話をする機会をつくり、理念の実践に日々取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の老人会員に施設長自身もなっており、地域行事に参加するなど日頃より地域との繋がりを大切にしている。また、自治会の厚意で入居者は地域の老人会に加入でき、地域行事の参加が出来る。	コロナ禍前は、地域行事の参加、幼稚園児や学生の訪問があった。コロナの感染状況をみながら、公民館での老人会行事に参加したり、大学の実習を受け入れている。また、近所の人が気軽に事業所に立ち寄られ、ケーキや野菜・果物の差し入れがある。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご近所の方や民生委員より地域の認知症高齢者について相談を受けたりしている。まだ入居する程ではない方や介護相談等を受けた時には包括支援センターに情報提供を行い、フォローをお願いするなどして連携を取っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に運営推進会議を開催している。利用者、職員の状況、地域との連携、行事報告、研修報告、事故報告、意見交換等を利用者、利用者家族、市職員、地域包括支援センター職員、自治会長、民生委員と共に行い、そこでの意見や提案をサービス向上に活かしている。	2か月に1回書面で運営推進会議を開催している。利用者やサービス内容について報告している。また、意見を書面でもらい、次の書面会議で報告している。運営推進会議メンバーから出た意見を取り入れながら、コロナの感染対応や面会室での面会を実施している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業を行う上での疑問点に関して介護保険課に相談している。事故報告時の改善策や身体拘束適正化委員会で解決しなかった問題点、また、制度上の疑問点などについては、その都度、電話相談や訪問などして、アドバイスや指導をして頂いている。	市担当者とは、メールや電話で事故対策の相談等をしている。コロナ禍前は、認知症サポーターや認知症の方への声かけ訓練等を行っていた。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を重ねて実施し職員の理解と意識を高め、事業所全体の方針として身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員は、身体拘束をしないケアについて取り組んでいる。身体拘束についての内部研修が年1回開催され、全職員参加しており、資料や研修記録が整備されている。2か月に1回身体拘束廃止委員会が行われている。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について外部研修及び内部勉強会等を重ねて行い、職員全体の知識と意識の向上に努めてきた。現在は職員が互いに注意しあったり、上司による新人スタッフ指導等を行いながら防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度について内部研修を行い、具体的に成年後見制度の利用者が使われているのか、また、勧めていきたい利用者について具体的に話をしている。成年後見制度等のパンフレットを施設内に常備したり、家族会開催時に制度の説明の機会を設けるなど利用者家族にも案内している。	権利擁護に係る制度に関して、家族には契約時や必要時に説明をしている。職員は、年1回内部研修を受けており、資料や研修記録が整備されている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約や改正においては十分に説明を行うよう努め、疑問点等についても訪ねている。改正が必要な時には御家族あてに文書を作成し全利用者家族の同意書を取っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護サービス計画書作成時の家族との面談時や面会時などの意見や要望については、ユニット内会議にて報告して共有している。また、家族会での意見や外部評価時行われるアンケートの結果も、職員だけではなく運営推進会議等で報告して運営に活かしている。	職員は、日常的に利用者の要望や意見を聴いて、利用者が食べたいものを持ってきてもらったり、外出希望を実現する等運営に反映させている。家族には、電話や面会時に要望や意見を聴いている。多人数や幼児の面会希望時は、居室の窓からの窓越し面会を行う等、家族に意見を取り入れるようにしている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議の中で、職員の意見や提案を聞き話し合っている。急ぎの内容については朝礼時に話し合い連絡帳にて意見を求めている。施設全体の運営の問題と考えられる意見については、管理者同士で共有し職員に伝達している。	会議や朝礼等を含め、日頃から職員の意見を聴くように努め、利用者の介護方法や業務内容等について、職員の意見を取り入れている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務に関連する各種研修だけではなく、資格取得のための研修についても受講料を負担、勤務扱いで参加でき、取得免許に応じた賃金体系になっており、職員が向上心を持ち働けるよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	60歳以上の高齢者も積極的に雇用し、65歳定年後においても希望があれば勤務を続けることが出来る。また、介護中や乳幼児を抱える子育て世代も雇用しており、各自が出来る限り希望日に休めるよう勤務表を組むなどし、社会参加を実現させている。	性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。定年後、希望あれば、勤務継続を可能としている。研修への参加や資格取得がしやすいように、勤務等について配慮している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	コロナ禍の為WEB会議に参加したり、動画による研修を受けたりしている。	年1回、全職員が人権に関する内部研修を受けている。研修記録等が整備されている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が積極的に研修会を受講できるよう外部研修会の案内をしている。また、職員のキャリアに合わせた研修の参加を推進している。新人職員には就職後、3カ月間の研修期間を設けるとともに積極的に外部研修の参加をさせている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市、県、国単位での各協会に加盟し、それぞれの研修や意見交換会等を通し同業者と交流している。また、校区内の各種介護保険サービス事業所との会議や地域イベントの開催等で互いに協力したり情報交換等を行っている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学時から本人の希望ができるだけかなえられるように要望を確認して、入居にあたっては馴染みのある食器や服などを持参して頂き、生活に大きな変化を感じないように努めている。入居時には困りごとがないかを確認しながら、早く安心して生活が送れるようになるよう問題解決に努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの時点から家族の一番の困りごとを丁寧に確認して解決に向けた支援を心掛けている。また、入居後においても家族にとっての心配事や悩みなどを面会ごとに確認して、できうる限りの支援を行い関係を構築していくよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の希望、家族からの聞き取りや添書等で得た情報や行動を観察して、現時点で一番必要な事等について会議で話し合い決定し、支援を行っている。必要性があれば医療機関の受診に同行し、今後の治療計画を相談したり、訪問看護や訪問リハビリの利用等を勧めることもある。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができていることを重視し、できるかぎり継続できるよう支援している。施設の生活で利用者が出来る家事などを一緒に手伝っていただきながら、自分も役に立っているという思いを大切に共同生活の中での喜びや心の安定を図っている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会があり、家族会開催時に職員も参加し、家族を含めた利用者への支援の仕方等も話し合っている。また、面会ごとに情報を提供しながら、共に利用者を支援していく姿勢で家族への協力を依頼している。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の利用前からの友人や地域の顔見知りの方々等の訪問を歓迎し、面会室にて交流の時間を有るように支援している。外出できる時には送迎したり、ご家族に協力いただき、関係性が途切れないように努力している。	利用者の馴染みの人や場所を利用者や家族から聴いて把握している。面会は家族のみでなく、友人や知人も面会室で面会してもらったり、手紙や電話の支援をしている。受診や外出した時は、馴染みの場所を通るようにしている。コロナの感染状況をみながら馴染みの美容室や店に行っている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が一緒に集まりゆったりと過ごせる場を設けたり、お喋りしながら作業できる場を設定したりしてお互いに関わりあえるような支援に努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時には今後の事項について家族の相談に応じて支援している。契約終了後も気軽に立ち寄って頂いたり、相談のお電話を頂くなどの関係作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の思いを傾聴したり、日常での関わりの中での会話や表情、仕草や生活歴などから本人の真意を読み取るように努めている。また、家族からも利用以前の様子を尋ねたり相談したりしながら本人の意向を汲み取るよう努めている。	利用者や家族の思いに寄り添いながら、日常の会話などから利用者の意向の把握に努めている。また、心身の状態や気分に変化されることもあるので、注意深く見守り、ジェスチャーや筆談など交えながら言葉にしづらい思いを表情から推察している。本人らしい暮らしが出来るように支援している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族、以前利用のサービス事業所や医療機関などからの情報収集により生活歴や今までの環境、サービス利用の経過などを把握し利用後の支援に活かしている。また、レクリエーションや食事の際のフリートークの中からご本人のこだわりなどを探っている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の状況は日によって違うことが多いので、朝起きてからの状況や生活の場面で観察したことを、朝の朝礼や申し送り時に伝達して各スタッフが一人ひとりのその時々々の心状態や身体機能の能力等を見極め、常に現状を把握するよう努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	急な状態の変化や問題点が生じた時には申し送り時や会議等を通じて、話し合い情報を共有するようにしている。介護計画はできる限り本人、家族、医療機関等の意見、意向を聞き、職員の意見やアイデアも反映させたものとなるよう努めている。	利用者や家族の意向を大切に、ケア関係者の情報や気づき、ケアのアイデアを反映させた介護計画を作成している。6ヶ月に1回、あるいは利用者の心身の状況の変化が生じた時は、柔軟に計画を見直し、利用者主体の暮らしを支援している。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践や利用者の状態、様子、スタッフの気づきなど日々の経過記録等に記録し、申し送りや連絡帳を通して伝達して職員間で共有し、ケアの実践に活かしたり介護計画の変更を活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族に代わって職員が利用者の衣類や物品を買いに行ったり、都合がつかない家族に代わって退院時の迎えや役所等への手続きを代行するなどその時々に応じた柔軟な支援に努めている。医療機関受診の際の理解が難しい家族については看護スタッフが同行し、分かりやすく解説し、判断できるように支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会、老人クラブ、民生委員、地域ボランティア等が訪問時に交流したり、利用者が老人会行事に参加されたり、日々を楽しみながら暮らしていけるよう支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向により以前からのかかりつけ医を受診されたい方には継続受診している。連携医の往診は月2回あり、急変時の往診も対応してもらっている。歯科往診は週1回、皮膚科は4週に1回の往診がある。	利用者や家族が希望する医療機関・医師の診察を受けられるように支援している。家族と協力して受診の同行をしている。受診時の情報や結果は、職員が家族に連絡して情報を共有している。協力医療機関と24時間の連絡体制を構築している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は日常の中で身体異常や状態の変化に気付いたら看護職や管理者に報告し相談している。看護職はそれに対処し、必要に応じて主治医への連絡や病院受診を行っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には利用者に関する情報等の添書を医療機関に渡し、入院中も看護やりハビリ、ソーシャルワーカーと連携して退院後の予定等を打ち合わせている。退院時は退院カンファレンスに参加するなどして施設に戻った際のアドバイスを医療機関よりもらっている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より重度化した場合や終末期における看取り介護等についての説明を行い、状態の変化に伴ってその都度家族と話し合い意向の確認等を行っている。連携医から家族への説明などの協力も仰ぎながら方針が決まったら家族や職員、関係機関と共有し支援を行っている。	看取り介護に関する指針、職種別の役割や緊急時のマニュアルを作成し、支援体制を整え、入居時に利用者や家族へ説明を行っている。本人・家族の意向を尊重し、医師や看護との連携を図り、早い段階から繰り返し話し合い、方針を共有している。利用者が安心し、その人らしく過ごせるように、本人や家族の思いに寄り添い支援に取り組んでいる。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時や事故発生時に慌てず適切な行動ができるようマニュアルや緊急連絡網を作成し、職員には救急救命の研修会に参加してもらうなどして職員教育を行っている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災避難訓練を消防署員立ち合いで実施し、近隣地域の方にも緊急連絡網に入ってもらっている。土砂災害については年に一度の垂直避難訓練を実施して、備蓄品の確認を行っている。避難所には近隣の公民館を開放して頂くことを町内会と計画している。	マニュアルを作成し、消防署の協力のもと、利用者と共に訓練を実施している。避難訓練は年2回実施し、内1回は夜間想定で行っている。土砂災害を想定した避難訓練も実施している。また、災害に備えて、非常用食料、飲料水、排泄用品、寒さ対策用品等を準備をしている。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が外部研修の中で接遇や尊厳等について学んだり、職員間で互いに注意するなど日頃から言葉かけに注意しているが、尊厳を考慮しながらも標準語や尊敬語等では反応が薄い、表情が硬い方等には親しみやすい方言を交えての声掛けを行ったり、お一人おひとりに合わせた声掛けを心掛けている。	利用者の人格の尊重とプライバシーの確保について、職員が定期的に学ぶ機会を設け、意識向上を図っている。利用者の誇りやプライドを損なわない対応でその人らしい尊厳ある姿を大切に配慮した言葉遣いを心がけている。また、日頃の関わり方を職員同士で点検し注意し合い、個人情報の取り扱いにも注意喚起している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常での関わりの中で、意思表示できる方には思いや希望を尋ねる様に心掛け、利用者の状態によっては2択にして、自己決定し易いようにするなどしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者それぞれに暮らしへの希望ややりたい活動やペースがあり、職員はそれらに基づいてその日の体調や希望を考慮しながら出来る限りの支援を行うよう努めている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれを楽しむ方には言葉をかけて関心を無くさないよう支援している。白髪を染めたいなどの希望者にはカラートリートメント等に対応している。おしゃれされている時にはスタッフが声をかけるようにしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お茶入れや引き膳など簡単な作業をお願いしている。また、偏食の多い利用者に関しては本人の嗜好のおかずに変更したり、敷地内で採れた野菜と一緒に収穫し食事に添えるなどして季節を楽しんで頂けるよう支援している。近隣の方からいただいた季節の野菜や果物を食事に利用している。	職員は、利用者から教えてもらいながら白菜・らっきょうの漬物や梅干し・干し柿などを作ったり、近隣の方々の差し入れの果物や野菜を家庭的な好みの味付けで提供している。利用者の要望をもとに、3月の雛祭りにお寿司パーティーを計画している。利用者職員と一緒に準備や片付けを行っている。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べた量は毎食全員について記録し、水分摂取量については状態に応じ必要な方はINとOUTの量を記録管理し、十分な水分量を摂れるよう支援している。栄養状態についても定期的に確認を行っており、連携医師の指示などから食事量や糖質、塩分等を制限する場合もある。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全員に口腔ケアを行って頂いている。自分でできない方や磨き方が拙劣な方は必要な部分のみ介助を行っている。その他、訪問歯科による定期検診や歯科衛生士による口腔ケアなどの往診を受け、必要に応じて治療している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	スタッフは一人ひとりの排泄パターンを把握するよう努め、会議等で話し合い。タイミングを見計らって声掛けや誘導を行い、できない部分のみ介助してできるところは自分でして頂くよう支援している。	利用者がトイレと分かりやすいように目印で表示している。入居時にオムツを使用されていた利用者にも、タイミングを見計らい、さりげなく声かけをし、介助・誘導を行うことで、リハビリパンツでトイレでの排泄ができるようになり、自信を取り戻された事例がある。介護用品の使用は、昼・夜の状態に合わせて随時検討する等利用者がトイレで気持ちよく排泄できるように自立に向けた支援をしている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のために水分摂取に気を付けたり、体操やレクリエーションなどで身体を動かす事に気を付けている。また、排便しやすい時間帯にトイレに座るなど習慣化できるように働きかけている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	週に2回入浴を行っている。体調により入浴できない場合は身体清拭や更衣を行う。各人に入浴のタイミングを確認しながら順番を決めている。寒い時期には脱衣所にヒーターを持ち込み、入浴剤等を入れてたりして変化を楽しんでいただいている。	各ユニットで大まかな設定はあるが、利用者の希望に応じて柔軟に対応している。入浴の無理強いはせず、職員のチームワークでの声かけや浴室と脱衣所を温め、温泉マークののれんを掛け、入浴剤を使用し、温泉気分で気持ち良く入浴できるように支援している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各々の習慣や心身の状態、その時の様子等に応じて、居室でゆっくり休養したり、リビングソファーや畳でうたた寝できたりして眠れるよう支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	使用している薬の種類、目的や副作用などについてファイルにまとめ、いつでも閲覧できるようにしている。また、薬の変更時は連絡帳なども用いて全員に周知し、その後の変化について観察し医療機関へ報告している。医療専門職でないスタッフに対しては、変更理由について理解できるように説明している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人が出来る範囲でお茶くみや洗濯物たたみなどが出来る場を設定している。また、体操や歌を歌うことが好きな人には、皆で歌える場や体操を行う場を設定する等できるだけ楽しみながら生活を送れるような支援に努めている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候が良い季節には希望に合わせて散歩や近場に車で出かけたり、庭でおやつを食べるなど外に出る機会を作るようにしている。家族の協力を得て外食や買物に出掛けられたりしている。食材の購入時同行して頂き、ショッピングを楽しむこともある。	天気や本人の体調に応じて、散歩をしたり、家族の協力を得て、密を避けながら買物や外食等の外出支援をしている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は出来なくなっている方がほとんどで、小遣いは事業所管理が多いが、管理が可能な方は自分で小遣いを持たれており、職員が同行して買い物に行き、支払い時の援助を行っている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者からの希望で、職員が家族等に電話を取り次いでいる。遠方の親類からの手紙や贈り物が届いた時など、電話を取り次いだりしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が集まる居間にはソファがあり、馴染みの方達とゆったりとした時間が過ごせるようにしている。また、季節行事に沿った装飾（ひな人形やクリスマスツリー）、花などを飾り、季節が感じられるようにしている。廊下には休憩ベンチがあり、入居者の語らいの場になっている。また、トイレ等は車椅子でも使用しやすく歩行練習の場として利用できる。	共有空間は、整理整頓に努め、感染症対策をしている。玄関先にソファを設置しており、暖かい日差しが差し込み、利用者が集いくつろげるよう配慮されている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間である居間や食堂には、ソファや複数の椅子やテレビなどが配置されており、それぞれが思い思いの場所で、気の合う方と一緒に過ごされている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人や家族と相談し、できるだけ馴染みの家具や物品を持って来て頂くようにして、利用者が安全に過ごせるような環境づくりを心掛けている。	居室は家族の協力を得て、使い慣れた日用品や家具、テレビ、ソファ、テーブル等が持ち込まれているほか、家族写真や手作り誕生日のメッセージカード、小物類等が飾られ、自宅でのこれまでの暮らしのように安心して居心地よく過ごせるよう配慮されている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や居間、食堂等には手摺を設置し、歩行にやや不安がある方でも手摺に沿って自分で歩けるようにしている。また、排泄したい時の混乱を避けられるようトイレ入り口に大きく表示したり、夜間は常にトイレを明るくしておくなどしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)		①毎日ある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
			○	③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を朝礼時に唱和して、改めて気持ちの切り替えを行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍において参加の頻度は少ないが、参加できる地域の行事には、楽しく参加している。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	イベントなどでスタッフも参加し地域の方との会話の中で相談を受けたりしてる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	近々の取り組みや問題点など議題に挙げて、意見を交換したりしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	わからないことがあれば、介護保険課に相談する。地域密着運営推進会議の議事録にて報告した内容に関してアンケートをとり、返事をいただいている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃から勉強会を行い、気づいた点に関して改善を行い、スタッフ間で声を掛け合ったりしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会の開催を行い、チームでの介護で虐待にならないように声掛けを行っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について勉強会を行い、利用者家族にも伝えるようにしている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明を行い、入居後の変更事項については承諾書を受け取るようにしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話連絡時などにご家族からの意見を尋ねるようにしている。内容によってはスタッフと共有している。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に会議を行い、意見を求めるようにしている。日ごろから、よく話して不満など尋ねて解決できるようにしている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフのキャリアに応じて、将来を見据えた教育計画を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	それぞれの得意分野について、十分に能力を発揮できるように努めている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員による虐待防止委員会を作り、委員の任命を行い、自ら考えてもらうようにしている。また、人権尊重についての勉強会等にて理解を深めている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ベテランと新人とが混ざり合っているのをお互いが声をかけあったり、内外部の勉強会で学んだりし、スキルアップに取り組んでいる。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年は外部講師を招いての研修会を開催できなかったため、WEB研修会等に参加している。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	お話を聞く中で本人や家族が、今何に困っているのかを見極め、どういうサービス、どういった対応が最適かを考えている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族にもまず信頼していただけるよう分かりやすい言葉で丁寧に説明するようにしている。また、入居してからも電話などで今の状況などを伝え安心していただけるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お話を聞く中で本人や家族が、今何に困っているのかを見極め、どういうサービス、こういった対応が最適かを考えている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の精神・身体能力や歩んできた人生、意欲などからできることを模索し、洗濯物たたみなどできることを一緒に行っている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に本人の様子や要望等を伝え、安心して頂けるようにし、できるだけ本人を支えることに関わっていただくようにしている。また、病院受診の際に、家族にも付き添っていただくこともある。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍において外出はできないが、面会室を新設して面会には来てもらえるようにして心のケアに努めている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に壁飾りを作ったり、洗濯物を干したり畳んだりして頂くなど、交流をしてもらっている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も家族が訪ねて来られた時などに話を聞き、必要に応じて支援するように努めている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	時間がある限り声掛けを行い、本人の考えをおたずねし、自分のペースでお手伝いなどができるようにしている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前の暮らし方や生活環境などは、早い段階で家族からも聞かせてもらい、できるだけ今までの生活スタイルや習慣を取り入れながら安心して暮らして頂けるようにしている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方は、それぞれで第一に本人の希望が何なのかを考える。動作や言動について職員間で共有し、また、必要に応じて話し合い、現状の正しい把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを行い、本人の希望などを把握するように努めており、スタッフに共有するように連絡帳にて伝えている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	些細な変化でも記録に残し、訴えに気付けるようにしている。また、朝礼などでもスタッフと共有している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今年は外出する機会も減ったことから、ホームでの映画鑑賞や歌のライブ鑑賞をしていただくなどし暮らしの楽しみ方に変化を付けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で、今年は外部へ出ていくことができなかったため、ホーム内でのレクリエーションや誕生会等の行事への参加を楽しんで頂いている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医のほかに専門医での診療が必要な利用者には、家族と同行して安心につなげている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、日頃の介護の中で気付いた変化などについて看護や管理者へ伝え、必要に応じて主治医に伝えたり、受診や往診の際に支持を仰ぐようにしている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、病院との情報文書のやり取りだけでなく、口頭での状況伝達やこちらの受け入れ状況等も伝えて、できるだけ入院期間が少なくて済むよう心掛けている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人のADLの状態によりご本人と早い時期から希望を尋ねたり、ご家族の意向を確認したりしている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には、緊急連絡網にて施設長や看護に伝達することとなっているが、介護者による応急手当の仕方については、今後勉強会を行っていくことが必要と思われる。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練には、スタッフが全員参加して消防職員からの具体的な指導を受けている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	時には方言も使いながら基本的には失礼のない言葉づかいを心掛けている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉で表現できる方はわかりやすく希望へ近づけることができるが、言葉が発せなかったり、重い難聴の方などはジェスチャーや筆談、過去の生活歴などから理解したり汲み取るようにしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各人のその日の状態に応じて、また、その方の生活のペースや希望を尋ねながらその日の活動支援にあたっている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪については、定期的に美容師にヘアカットに訪れてもらっている。日々の中で鏡の前で髪をとくなどの支援は喜ばれている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ゼリー食の方には、介助しながら食事の説明をしたりしている。残存能力を生かしてスプーンをもってもらったり、後片付けを手伝ってもらっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特に、脱水状態にならないよう定期的に水分を摂って頂いている。また、適切なカロリー摂取量が崩れないよう医師の指示を受けるなど調整している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアが自分でできる方は、近位で見守りしながら行い、不十分な場合はお手伝いしている。介助が必要な方は、口腔内に残差物がないよう丁寧に介助を行っている。また、歯科より定期的に歯科医の検診やケアのアドバイス等を受けている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつの方も昼間はできるだけトイレでの排泄を進めている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食事をとって頂いたり、水分摂取量を管理するなどし気を付けている。それでも便秘が著しい際は医師と相談し、内服薬を使用する事もある。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	浴槽に浸かれる方はゆっくりと入浴できるようにお手伝いしている。本人の意向を確認して入浴時間を調整している。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝食後にリビングで傾眠される方がいる。その際は声掛けし居室で体を休ませてもらう無理なく過ごしてもらっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の服薬表を作成しており、介護者は間違いがないよう努めている。また、服薬の勉強会を行い、理解に努めている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を干したり畳んだりを手伝われる方が多い。終えたらスタッフからお礼を伝えている。また、リビングでテレビを観ながらおしゃべりをしたり、中庭でお茶を楽しんだり、近所の散歩を楽しまれる方など様々である。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	遠出はできないが、気候がいい時には庭に出たり、散歩をしたりして気分転換してもらっているようにしている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出がなかなかできないので、お金を支払うことはないが、コロナの流行が落ち着いたら以前のようにスーパーに行き、買い物支援を行いたい。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により家族への電話支援をお手伝いしている。電話がかかってきた際は自室にてゆっくり話してもらっている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの壁紙を張ったり、手作りの花や置物などを設置して目で見て楽しい物としている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う者同士で過ごせるようテーブルの位置を変えたり、ソファを配置したりしてお喋りなどしながらゆったりと過ごせる環境づくりに努めている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅よりなじみのものをもってきてもらったり、家族の写真を飾ったりして安心できる環境づくりを行っている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内の床は、段差が少なく各所に手摺りが設置されている。廊下の手摺りを用いてスタッフと立ち上がる運動をされる方もいる。トイレや浴場にも手摺りを配し、できることはできるだけ自分でして頂いている。また、排泄回数が多い方はトイレにスムーズに行けるようテーブルを配置したりしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)		①毎日ある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
			○	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	① ほぼ全ての家族と		
				② 家族の2／3くらいと		
				③ 家族の1／3くらいと		
				④ ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）		① ほぼ毎日のようにある		
				② 数日に1回程度ある		
			○	③ たまにある		
				④ ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		① 大いに増えている		
			○	② 少しずつ増えている		
				③ あまり増えていない		
				④ 全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）		① ほぼ全ての職員が		
			○	② 職員の2／3くらいが		
				③ 職員の1／3くらいが		
				④ ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての利用者が		
			○	② 利用者の2／3くらいが		
				③ 利用者の1／3くらいが		
				④ ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての家族等が		
			○	② 家族等の2／3くらいが		
				③ 家族等の1／3くらいが		
				④ ほとんどいない		